

災害に備えた3つの自治会の連携

内手自治会、港南郷自治会、弘明寺公園自治会 **六ツ川**

弘明寺公園自治会 小早川津恵乃会長

内手自治会、港南郷自治会、弘明寺公園自治会では、毎年、合同で防災訓練を行っている。以前、弘明寺公園自治会内で火が発生した際、内手自治会の方が教えてくれたことをきっかけに、近隣の自治会と連携することの大切さを知り、合同での取組を始めようと考えた。各自治会が1年毎に幹事を務め、放水訓練や応急救護など、毎年異なる内容の訓練を実施している。

また、各自治会のホースや消火器などの設置場所を記した地図を共有し、災害時はいつでも相互に消火器等を利用できるようにした。さらに、月2回の防犯パトロールを合同で実施したり、お互いの夏祭りにも参加するなど、日頃からの顔の見える関係づくりに努めている。



これからますます他の自治会との連携が必要になってくるよね！



合同での取組をすることで、会長だけでなく、住民同士の顔のつながりができた、あいさつする関係を築けたというのは、大きな成果だと思っています。それぞれ世帯数の少ない自治会ですので、これからも助け合っていきたいです。

地域で見守る認知症 太田東部オレンジの会設立まで

太田東部オレンジの会 **太田東部**

太田東部オレンジの会の皆さま



平成24年頃、地域の中で認知症の方が増えているという実感はあったが、認知症についての理解が進んでおらず、認知症キャラバン・メイトが一人もいなかった。

そこでまず、数名で研修を受講しキャラバン・メイトに登録。また、民生委員と一緒に見守りや認知症サポーター養成講座を実施した。さらに、地域に広めるためには多くの人の賛同が必要と考え、連合の会長会等で地区社協の一員として認められるようお願いした。そして、昨年9月、活動が正式に認められ、太田東部地区社会福祉協議会の部会として「太田東部オレンジの会」が発足。これからも認知症への理解を高めるため活動するとともに、新たなメンバーを探していきたいということである。

民生委員との連携、熱い思い、地道な活動、これらが実を結んだんだね！



当初は会の意義が伝わらず、「見守りなら民生委員がいるじゃない、なぜさらに見守りが必要なの？」という声もありました。町内会や商店街、小学校での講座開催などコツコツと活動を続け、徐々に認知度を高めることができました。

地域の笑顔をお届け 南区ソーシャルマガジン

キラリ

南の風はあったかい

相手を思いやりながら
さまざまな工夫をこらしながら
つながりを持ちながら

「キラリ」では
そんな素敵な取組を御紹介します

Vol.1
2017.11



◆みつが丘カフェサロン

大岡一丁目、若宮八幡宮の階段を上ると広がる住宅地、みつが丘のまち。アパートの一室で、子どもから大人まで多くの方が集まり賑わっています。この日は横浜総合高校の生徒さんが子どもたちに紙芝居の読み聞かせをしていました。詳しい様子は次号をお楽しみに。

子どもは地域の情報源 防災訓練に120人が参加

井土ヶ谷下町第一町内会 **井土ヶ谷**

井土ヶ谷下町第一町内会 河野正敏会長、杉山孝雄様(防災担当)



当町内会の防災訓練には、子どもから高齢者まで幅広い年代の方が参加する。昨年は120名の参加があった。6、7年前、要援護者名簿を作成する際に子どもたちは近所のお年寄りのことをよく知っているという話になり、子ども会を通じて子どもたちに防災訓練への参加を呼び掛けるようにした。また、老人会にも声を掛け、車椅子での参加も見られるようになった。「高齢者は、顔見知りになり応急処置の方法を覚え、いざというときに指示ができるようになってもらえれば」と会長は言う。

また、その他の行事においても、子どもの参加に力を入れている。行事のチラシは、回覧や掲示板用とは別に子ども用にぬり絵ができるチラシを作成し、行事に興味を持ってもらい、親子で参加してもらうことを期待している。



ひとこと 人集めには苦労しています。行事の際は、学校の先生に部活単位で参加してもらえようをお願いにあがっています。部活で選抜争いがある中で、個人での参加は難しいでしょうからね。若い方の参加で地域が活性化することを期待しています。

ぬり絵や部活単位での参加など、子ども目線の工夫が素敵だね☆



どんな行事でも多世代交流 若い力で町内会を元気に!

六ツ川四丁目町内会 **六ツ川大池**

六ツ川四丁目町内会 武藤博之会長

町内会活動を活発かつ継続して行うには幅広い世代が活動に携わることが重要であり、若い世代の参加を促すには子どもがメインになる行事を多く行うことが有効。そう考え、様々な工夫をしている。

まず、子ども会と他の部会の協力による行事の開催。年末特別パトロールでは子ども会と防犯部が協力して参加者を集め、2日間で延べ大人約80人、子ども約30人が参加した。

次に、子どもにも行事の作り手になってもらうこと。夏祭りでは、2日間で延べ約60名の小学生から大学生までの子どもたちが模擬店を手伝った。役員の子どもの手伝う姿を見て、手伝う子どもが増えたという。

そのほか、例えば芋掘りと感謝祭など、子ども向けの行事と他の行事を同日に開催し、多世代交流を生んでいる。



多世代交流の機会を多く設けて良い循環を生んでいるんだね!



ひとこと 毎年、一般住民に行事を手伝ってもらう「活動サポート員」の登録を募集しています。お願いするのは夏祭りの準備等、どれも半日単位のもの。3年前から登録し手伝ってくれていた若い女性が今年役員になったという嬉しいこともありました。



若手とベテランが共に活躍 青年部の起ち上げ

六ツ川中第一自治会 **六ツ川**

六ツ川中第一自治会 田中克彦会長

このままではいけない。かつてスポーツ推進委員を務めていた田中会長だが、10年間自治会を離れ50歳の時に戻ると、役員の顔ぶれが変わっていなかった。夏祭りの設営は、役員の高齢化で手が足りなかった。そこで当時の自治会長に相談し、今から10年前に青年部を起ち上げた。最初の4~5年はなり手が出ず苦労したが、子ども会の父親あてに案内を配布する、行事の際に声を掛けるなどし、メンバーを増やしていった。現在青年部は18名、平均年齢約45歳のメンバーで、自治会の行事や畑作業をサポートしている。

また今年から、自治会の部会に副部長ポストや新たな部会を設置するなど、若い人の活躍の場を設けた。若手とベテランが支え合いながら活動できるよう取り組んでいる。



ひとこと 保護者が楽しめるイベントでないと意味がない。イベントの際、模擬店の横に本部とは別に、青年部など若い父母が集えるテントを作っています。そこで同世代で楽しんでもらい、意気投合した方を青年部にお誘いしています。

若手が集える場づくりが工夫されていて、みなっちも参加したい♪



ハロウィンイベントで楽しく見守り

共進町一丁目町内会 **蒔田**

共進町一丁目町内会 宮代茂会長



「町内と関わる機会の少ない一人暮らし高齢者に子どもたちとふれあう機会をつくりたい」。その思いから、当町内会では平成26年からハロウィンイベントを始めた。老人会で把握している一人暮らし高齢者の情報をもとに、子ども会の役員がお宅を訪問しイベントへの協力をお願いする。そして、協力いただけるお宅に事前にお菓子を配り、お手製の案内板を玄関に飾り、当日を迎える。

参加する20~30名の子どもたちはグループに分かれ、約20軒の一人暮らし高齢者のお家を訪ねる。思い思いの衣装を身にまとった元気な子どもたちの姿に高齢者の顔もほころぶ。子どもと高齢者、両者にとって楽しいイベントでありながら、一人暮らし高齢者の見守りにつなげている。

ひとこと 訪ねた高齢者の方からの感想は励みになります。「元気になった」「子どもの笑顔が見れて良かった」「こんな楽しいことがあるなら私も元気にしていないと!」という言葉をいただくと、やって良かったなあと思います。

ハロウィンイベントで見守りなんて、発想がすばらしい!

